

みんなで残そう ツツザキヤマジノギク

ツツザキヤマジノギクの形態・生態の多様性と魅力について

ツツザキヤマジノギクは、長野県のレッドリスト(絶滅危惧 IA 類)に登録され、長野県指定希少野生動物、松川町の天然記念物に指定されています。

きれいに並んだツツザキ状の花は、本当に美しいと思いませんか。

この草花は概ね 2 年草で、発芽 1 年目はロゼット(※1)として過ごして冬を越え、2 年目に抽だい(※2)して、草丈30~120cmほどになり、美しい花を咲かせて枯死します。それぞれの個体を観察すると形態や生活型などは多様性に富んでおり、この変化の特徴が大きな魅力の一つとも言えるでしょう。

ツツザキヤマジノギクは永続的な土壌シードバン(※3)を形成しないと考えられています。つまり、今の個体群が消滅すると直ちに「絶滅」となってしまいます。

※1 ロゼット:葉を放射状に配置し、円盤状になった状態。この状態で越冬する。

※2 抽だい:花茎が伸びてくる現象。

※3 土壌シードバン:土の中で長い間生存し、発芽のチャンスを待つことができる種子の集団(埋土種子)のこと。



保全活動と今

ツツザキヤマジノギクは日光の当たる場所を好みますが、1 年目をロゼットで過ごすために他の植物が繁茂して日光を遮ると生育できません。レキ河原の痩せた土壌、洪水によるかく乱などの厳しい環境がゆえに、他の植物と競合せずに生き残ってきた植物です。近年、この河原も外来種の侵入が著しく、個体数の減少と絶滅の危機があり、研究者や国土交通省、松川町の呼びかけで、平成 10 年から保全活動が始まりました。毎年、春季に外来植物の駆除(除去)、秋季に観察会を行うなど、学習と河川環境の整備活動を行っています。

次世代にツツザキヤマジノギクを残すためには、多くの皆様の力を必要としています。

松川町ツツザキヤマジノギク保全協議会 国土交通省天竜川上流河川事務所 松川町